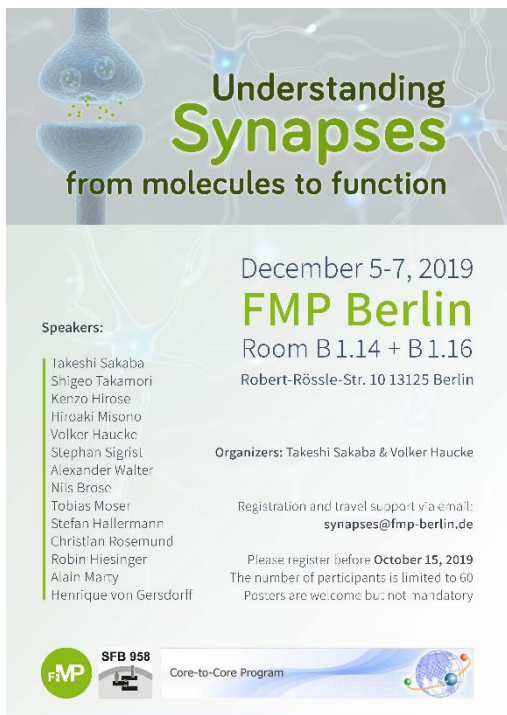


2019年12月5日から7日にかけて、日本学術振興会先端研究拠点形成事業「光生物学を軸とした神経可塑性研究拠点の形成」の一環として、研究会「Understanding Synapses - from molecules to function」を催した。本会議は、事業連携拠点であるFMP BerlinのVolker Haucke博士の尽力により、ドイツ・ベルリンで開催され、日米欧からの参加者を得た。会議を通じて、参加者は最新の知見に触れるだけでなく、共同研究について話し合うなど、親交を深める貴重な機会となり、日本からの一部の参加者は会議の前後で国際共同研究をおこなった。シンポジウムでは、この分野の研究で著名な研究者および気鋭の若手研究者が口頭で発表したほか、多くの参加者がポスター発表をおこない、活発に議論した。研究会では、神経系での情報伝達のしくみとその可塑性を中心に、発生や病態のような、より長い時間をかけた機能変化にも話題が及んだ。神経可塑性研究でよく使われてきた電気生理学的手法は、解析方法やシミュレーション技術の進展により、今もなお有用であることを確認する一方で、ライブイメージングや分子遺伝学、超解像蛍光顕微鏡、電子顕微鏡といった、分子や細胞内構造などの「もの」を扱う・見る技術の進歩もめざましく、ナノレベルの細かい空間での「もの」のふるまいから神経可塑性を理解する試みが盛んにおこなわれていた。こうした「もの」レベルでの現象から個体の生理機能にせまる研究も紹介され、神経可塑性の研究が広く脳機能の理解につながる可能性を印象づけた。



Understanding Synapses
from molecules to function

December 5-7, 2019
FMP Berlin
Room B1.14 + B1.16
Robert-Rössle-Str. 10 13125 Berlin

Speakers:

- Takeshi Sakaba
- Shigeo Takamori
- Kenzo Hirose
- Hiroaki Misono
- Volker Haucke
- Stephan Sigrist
- Alexander Walter
- Nils Brose
- Tobias Moser
- Stefan Hallermann
- Christian Rosemund
- Robin Hiesinger
- Alain Marty
- Henrique von Gersdorff

Organizers: Takeshi Sakaba & Volker Haucke

Registration and travel support via email:
synapses@fmp-berlin.de

Please register before **October 15, 2019**
The number of participants is limited to 60
Posters are welcome but not mandatory

FMP **SFB 958** Core-to-Core Program

